

一酸化炭素計XC-2200

現場で役立つ便利な機能がいっぱい。



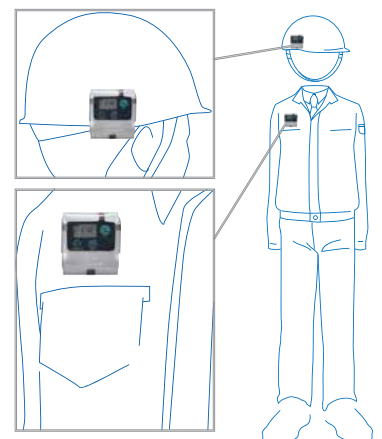
(原寸大)

CO
一酸化炭素用

多彩な機能により、現場状況を的確に把握し危険をお知らせします。

- 単4形アルカリ電池1本で約5000時間*
連続使用可能
- 4ヶ所のランプ、ブザー、バイブレーションで警報
- 積算濃度表示機能・ピーク値メモリ機能・
ピークホールド機能搭載
- 厚さ22mm・重さ約75gの薄型・軽量
- ガス校正がお手元で可能

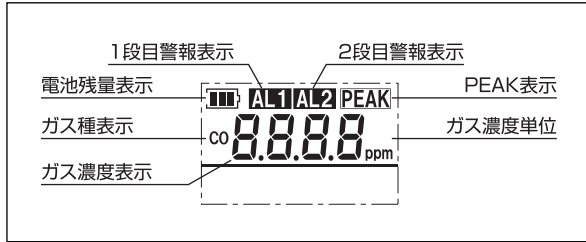
(別売りのキットが必要です。詳細につきましては、お問い合わせください。)



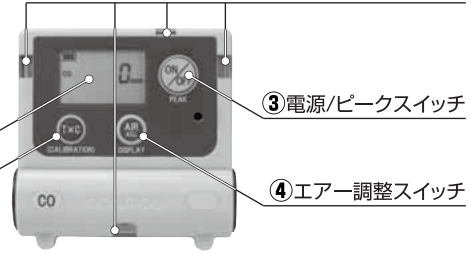
※オプション使用

※無警報時(ガス濃度表示が20ppm以下)、20℃の場合

①LCD表示



②警報ランプ(4箇所)



積算濃度(T×C)表示機能

⑤を押すと、T:ガスの曝露時間(hr)×C:CO濃度(ppm)で割り出した積算濃度を表示します。積算濃度が150ppm・h以上に達すると警報でお知らせします。

ピーク値メモリ機能

③と④を同時に押ししている間、画面にPEAKの表示が点滅し電源ONから現在までのピーク値(最大値)および経過時間を表示します。スイッチを離すと、通常的气体濃度表示に切り替わります。

ピークホールド機能

③を一度押すと、画面にPEAKの表示がされ、その間のピーク値(最大値)を常に表示します。もう一度PEAKスイッチを押すと、通常的气体濃度表示に切り替わります。

仕様

型式	XC-2200	付属機能	電池残量表示、ピークホールド機能、ピーク値メモリ機能、積算濃度表示機能、ガス警報以外の警報機能(積算濃度*3、センサ異常、電池残量、ゼロ調整不良)、ガス校正機能
検知対象ガス	一酸化炭素	使用温度範囲	-10℃~40℃、30~90%RH以下(但し、結露なきこと)
検知原理	定電位電解式	電源	単4形アルカリ乾電池1本
ガス採気方法	拡散式	連続使用時間*2	約5000時間 ※無警報時(ガス濃度表示が20ppm以下)、20℃の場合
検知範囲(サービレンジ)	0~300ppm (300~2000ppm)	外形寸法	W65×D22×H64mm(突起部を除く)
警報設定濃度	1段目:50ppm 2段目:150ppm 積算濃度*3:150ppm・h	重量	約75g(電池含む)
応答時間*1	30秒以内	標準付属品	単4形アルカリ乾電池1本、安全ピンアダプタ1個(取付ねじ付)
表示方法	液晶デジタル(手動バックライト)	オプション	レーザーケース、耐熱レーザーケース、クリップ付ストラップ、ガス点検治具、ガス校正セット、ヘルメットクリップセット*4、フィルタエレメント
警報方式	ブザー鳴動、赤色ランプ点滅、液晶表示、振動		

*1 90%応答、周囲温度は20±2℃の状態とする。
 *2 環境条件、使用条件、保存期間、電池メーカーなどにより異なる場合があります。
 *3 積算濃度はガス曝露時間(hr)とガス濃度(ppm)の積で表します。本器では、1分間平均濃度の積算値を60分で除して算出しています。なお、時間計算は±5%程度の誤差を有しています。また、単位は便宜上"ppm"としています。(例えば、CO 30ppmを5時間連続曝露した場合は、30ppm×300/60=150ppm・hとなります。)
 *4 ヘルメットの種類によっては、装着できない場合があります。

標準付属品

オプション



●安全ピンアダプタ1個(取付ねじ付) ●レーザーケース ●耐熱レーザーケース



●ガス点検治具 ●ヘルメットクリップセット

このカタログは、再生紙を使用しています。

一酸化炭素の知識

一酸化炭素中毒の危険性

CO中毒とは、不完全燃焼等により発生したCOを含んだ空気を吸入した場合に起こる中毒です。COはヘモグロビンとの結合力が強い為、少量を吸入しても血液中の酸素運搬能力が著しく損なわれ、酸素欠乏を起こすといわれています。その症状は、濃度と吸入時間に大きく左右され、さまざまな症状を起こします。

一酸化炭素の人体に与える影響

CO含有率	人体の状況
100ppm	数時間の呼吸後でも目立った作用はない。
200ppm	1.5時間後に軽度の頭痛を起こす。
400ppm~500ppm	1時間後に頭痛、吐き気、耳鳴り。
600ppm~1000ppm	1~1.5時間後に意識を失う。
1500ppm~2000ppm	0.5~1時間にて頭痛、吐き気激しく意識を失う。
4000ppm以上	短時間でも吸引すれば、生命危険。

出所:炭鉱保安係員実務教本



安全に関するご注意

- ご使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 検知器は指定対象ガスのものをお使いください。指定の対象ガス以外でご使用になると事故の原因になるおそれがあります。

検知器の性能を維持し、安全を確保していただくためには
 日常点検および定期点検を実施してください。